



公益社団法人

# 日本水産資源保護協会

## CONTENTS

# 季報

2017年 **春** 通巻551

第10巻 第1号

### 話題の広場 養殖衛生管理技術者の養成

(公社)日本水産資源保護協会 事業担当 矢野 雅 .....3

#### ◆事業の紹介 ..... 9

マリン・エコラベル・ジャパンの認証を取得しました  
 養殖エコラベルの認証を取得しました  
 国産水産物流通促進事業

#### ◆会議の報告等 .....22

平成28年度水産資源保護啓発研究事業  
 平成29年度水産資源保護啓発研究事業

#### ◆お知らせ .....26

### 被災地水産物流通利用促進事業

水産加工業者に対する風評被害対策として被災地現地見学ツアーを実施しました ..... 2

### 国産水産物流通促進事業の紹介

この漢字はどの魚でしょうか? ..... 27

全国の小・中学校にポスターを配布! ..... 28



平成29年3月27日付けでマリン・エコラベル・ジャパン (MELJ) を4業種3社が、養殖エコラベル (AEL) を17業種7社が新たに認証を取得しました。

東京オリンピック・パラリンピック開催に向け、その影響もあり、水産エコラベルへの関心が高まっており、今後の普及促進が期待されます。

各認証内容は本文9ページより掲載しています。

マリン・エコラベル・ジャパン認証証書授与式 (写真左)、養殖エコラベル認証証書授与式 (写真右)

# 水産加工業者に対する風評被害対策として 被災地現地見学ツアーを実施しました

本ツアーは、水産物を取り扱うバイヤーを対象として、実際に被災地の魚市場や加工場に足を運び、自分の目で安心・安全の取組を確かめ、今後の取引に繋げていこうという取組です。

## 現地見学の様子

大船渡市（平成29年3月6～7日）



大船渡魚市場



大船渡魚市場の製氷施設

いわき市（平成29年3月14～15日）



冷凍冷蔵施設の凍結機



小名浜魚市場での試験操業の説明

## 参加者の声（ ）内は参加場所

- ・3.11 から6年経ち、やはり復興にはまだまだ時間がかかるのだと感じた。岩手の食材を積極的に使い、食材への理解を深めたいと思う（大船渡）
- ・被災地に向かう事で、目に映るもの、感じるものをわたしの地元に戻った時にたくさん伝えていきたいと思っている（大船渡）
- ・食材としては一級品の物ばかりで、是非取り扱いさせていただきたい（いわき）
- ・スーパーで福島産の食材でも安心して買おうと思う（いわき）

## 養殖衛生管理技術者の養成

(公社)日本水産資源保護協会 事業担当 矢野 雅

消費者の食品に対する安心・安全への関心は高く、水産養殖業でも、安心・安全な養殖魚介類の安定かつ持続的な供給が求められています。そのためには、水産防疫や漁場環境保全等の問題に関する正しい理解、正確な知識、確かな技術を持ち、養殖活動を実践することが重要となります。

当協会が農林水産省の委託を受けて実施している「養殖衛生管理技術者養成研修」(以下、研修)では、魚介類の疾病に関する講義を中心として、持続的養殖生産確保法・関連法規の講義、疾病診断についての基本的な技術の実習等を実施しています。さらに受講生間の討論の場を設け、現場技術者として必要な水産防疫に対する問題意識の共有化やその時々問題となっている課題に対しても、研修を通じて知識の普及を図っております。以下にその概要と平成28年度の開催内容を紹介します。

### ● 養殖衛生管理技術者養成研修の概要

本研修は、国内防疫を担う都道府県職員や漁業協同組合の職員等を対象に、養殖業における水産動物疾病の発生やまん延の防止を指導する技術者を養成するための研修です。昭和46年度より水産庁の主催で実施され、昭和52年度からは一部年度を除き、社団法人

人日本水産資源保護協会が受託・開催しています。当初は「魚病研修」として始まり、昭和59年には水産庁による魚類防疫士認定事業の開始に伴い、現在のカリキュラムの基盤が完成しました(表1)。その後幾度かの名称や時間割の変更を経て、現在は魚病対策だけでなく、養殖業に係る衛生対策を担う技術者育成を目的とした「養殖衛生管理技術者養成研修」となりました。現在本研修は、本科コース、養殖衛生管理行政コース、特別コースおよび選択コースから構成されています(表2)。

### ● 研修の意義

研修事業が始まった昭和49年度から平成28年度までに、のべ5,797名の水産防疫に関わる人が受講しており、現在も多くの受講生が現場で活躍しています。また、この研修は知識や技術を学ぶだけでなく、全国各地の水産防疫に携わる人たちが集まることでネットワークが構築され、全国の水産防疫体制の維持強化にも役立っています。

近年は、平成28年7月に輸入防疫対象疾病が新たに追加されたことを受け、動物検疫所の職員を対象とした特別コース研修も実施し、国外からの新たな疾病の侵入にも対応できるように取り組んでいます。



実習コース研修の様子



専門コース研修の様子  
「水産防疫の取り組みに関する意見交換会」

表1：養殖衛生管理技術者養成研修：沿革

年度	主催者	コース			
昭和46年度	水産庁	「魚病研修」 基礎コース 専門コース 応用コース			
昭和52年度	社団法人日本水産資源保護協会 (水産庁の委託)				
昭和55年度	↓	Aコース	特別コース	Bコース (B1コース・B2コース)	
昭和59年度		魚類防疫士養成コース本科	魚病行政コース	魚病専修コース (研究・専門)	魚類防疫関係者コース (魚類防疫協力員コース、防疫関係者コース) 22年度以降は特別コースと一本化
平成13年度		魚類防疫技術者養成コース本科 (1年次、2年次、3年次)			
平成15年度	社団法人日本水産資源保護協会 (農林水産省の委託)	養殖衛生管理技術者養成コース 本科	養殖衛生管理 行政コース	養殖衛生管理技術者養成 コース専門	選択コース (再教育)
平成18年度	↓	本科コース (第1年次、第2年次、第3年次)		特別コース	
平成22年度	養殖衛生対策推進協議会 (農林水産省の委託)	本科コース (基礎コース、実習コース、専門 コース)			
平成23年度	↓				
平成25年度	公益社団法人日本水産資源保護協会 (農林水産省の委託)				
平成28年度	↓				

表2：養殖衛生管理技術者養成研修：コースの構成

名称	受講対象	研修内容	受講人員	開催回数・日数
本科コース	地方公共団体等が推薦する者	養殖衛生管理技術者として必要な知識、技術の講義、実技の研修	基礎コース 実習コース 専門コース 各20名程度	各コース年1回開催し、 1回2週間程度
特別コース	地方公共団体等において、養殖衛生管理を担当する者、並びに協力する者	養殖衛生管理および魚介類疾病に関する最新かつ専門的知識や、魚類防疫員に協力する者として必要な知識、技術についての講義、実技研修	20名程度	年1～2回開催し、 1回2日程度
選択コース	地方公共団体等が推薦する者であって養殖衛生管理対策等に協力する可能性のある者	養殖衛生管理対策等に協力する者として必要な知識、技術を本科で実施する講義、実技研修のうちから選択	基礎コース 実習コース 専門コース 各10名程度	各コース年1回開催
養殖衛生管理行政コース	都道府県職員	養殖衛生管理行政および魚類防疫に関する一般知識の講義	20名程度	年1回開催し、 1～2日程度

表3：養殖衛生管理技術者養成研修：平成28年度実績

名称	科目	時間	受講人数	開催日
基礎コース	持続的養殖生産確保法	1	29名	平成28年7月26日(火) ～8月5日(金)
	医薬品医療機器等法	1		
	食品衛生法	2		
	養殖漁場環境論	2		
	魚病学総論	4		
	ウイルス病	12		
	細菌病	14		
	寄生虫病	10		
	真菌病	6		
藻類学総論	4			
	小計	56		
実習コース	細菌実習	12	28名	平成28年8月22日(月) ～9月2日(金)
	ウイルス実習	12		
	真菌実習	10		
	寄生虫実習	10		
	特論・演習Ⅰ	2		
	特論・演習Ⅱ	2		
	小計	48		
専門コース	魚類免疫学	6	15名	平成28年12月13日(火) ～21日(水)
	魚類病理学	6		
	魚類生理学	6		
	魚類飼養学	6		
	魚類薬理学	6		
	特論・演習Ⅰ～Ⅳ	10		
小計	40			
第1回 特別コース	欄外に記載		16名	平成28年7月15日(金)
第2回 特別コース	欄外に記載		18名	平成29年2月22日(水) ～23日(木)
第3回 特別コース	欄外に記載		26名	平成29年3月9日(水)
選択コース	本科コースより選択		2名	
養殖衛生管理行政 コース	持続的養殖生産確保法	1	7名	平成28年7月26日(火) ～27日(水)
	医薬品医療機器等法	1		
	食品衛生法	2		
	魚病学総論	4		
	小計	8		

**実習コース 特論・演習内容**

特論・演習Ⅰ：

公益財団法人目黒寄生虫館での講義および見学

特論・演習Ⅱ：

「養殖生産工程管理手法 (GAP手法) について」

**専門コース 特論・演習内容**

特論・演習Ⅰ：

水産防疫の取り組みに関する意見交換

特論・演習Ⅱ：

外国からの疾病の侵入とその問題点

特論・演習Ⅲ：

養殖魚類における遺伝情報を活用したゲノム育種  
研究の現状と展望

特論・演習Ⅳ：

養殖現場における魚病診断・対策

**特別コース**

第1回：

新しい水産防疫対象疾病の検査法等について

第2回：

異体類のアクアレオウイルス感染症の診断法につ  
いて

第3回：

観賞魚輸出業務に関わる情報交換会

## ● 各科目、講師および講義概要 (平成 28 年度)

### 持続的養殖生産確保法

**担当講師：**珠玖 知志 (農林水産省消費・安全局畜水産安全管理課水産安全室)

講義概要：水産動植物の防疫制度は、平成8年に創設された水産資源保護法に基づく輸入防疫制度、平成11年に創設された持続的養殖生産確保法に基づく国内防疫制度により運用されている。本講義では、持続的養殖生産確保法に基づく養殖水産動植物の伝染性疾病に対する防疫制度について、講述する。受講生は、我が国の水産動植物の防疫体制の概要、特に持続的養殖生産確保法に基づく「特定疾病」についての発生予防、まん延防止措置について理解する。

### 医薬品医療機器等法

**担当講師：**比企 基高 (農林水産省消費・安全局畜水産安全管理課水産安全室)

講義概要：水産用医薬品は、医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律 (以下、「医薬品医療機器等法」という) により、その品質、有効性および安全性の確保のための必要な規制が定められている。本講義では、医薬品医療機器等法について概説するとともに、水産用医薬品の適正使用の確保について説明することにより、水産養殖における薬事の知識を習得することを目標とする。また、水産用医薬品を巡る最近の動向についても紹介する。

### 食品衛生法

**担当講師：**井河 和仁 (厚生労働省医薬・生活衛生局基準審査課)

齊藤 恵子 (厚生労働省医薬・生活衛生局監視安全課)

講義概要：食品衛生法は、飲食に起因する衛生上の危害の発生を防止するために設置された法律であり、もって国民の健康の保護を図ることを目的としている。水産食品も例外ではなく、この法律の下で管理されている。本講義では、水産食品の摂取に起因する衛生上の危害を防止するための、規格基準の設定、食中毒対策または衛生管理対策などの施策について説明し、水産食品の養殖と衛生確保の関係などについて理解することを目的とする。

### 魚病学概論

**担当講師：**小川 和夫 (公益財団法人 目黒寄生虫館館長)

講義概要：魚病学の概要を系統的に理解できるように、魚病学の歴史、病気の種類、診断・研究方法、および感染症対策について、基礎的事項を解説する。

### 養殖漁場環境論

**担当講師：**中西 敬 (近畿大学非常勤講師)

講義概要：食料自給の問題、海外での魚介類需要の拡大、増加するフードマイレージに伴うCO<sub>2</sub>排出増加、地産地消の重要性など、水産物を取り巻く経済環境の変化に伴い養殖業の役割が益々重要となってきた。一方、養殖業が依存する漁場の環境はさまざまな課題を抱えており、富栄養化、底質の悪化、赤潮や青潮といった問題に加え、栄養塩の不足 (偏り) などの新たな問題も生じてきている。本講義では、養殖漁場環境の現状と課題について「漁場改善計画策定・運用のための手引書 (指導者編)」を用い、主に魚類養殖を対象に解説する。また、漁場環境改善の取り組みや技術も紹介する。加えて、今後の養殖漁場環境の維持・改善のあり方に関する討議を行う。

### ウイルス病

**担当講師：**佐野 元彦 (東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科 教授)

講義概要：ウイルス病に関する一般的事項を紹介し、水族あるいは養殖環境におけるウイルス病の特殊性について論議する。温水性淡水魚および魚介類の主なウイルス病を紹介し、その特性を理解するとともに、感染症防除の難しさについて論議する。また、感染症の問題解決にとって疫学的検討が極めて重要であることを理解する。

### ウイルス病

**担当講師：**笠井 久会 (北海道大学大学院水産科学研究院 准教授)

講義概要：魚介類の増養殖にとって大きな障害の一つとなっているウイルス病について、病気の実態、その原因ウイルス、病気の疫学および防疫対策について学び、養殖現場での疾病被害の防止に役立つ知識を習得する。

### 細菌病

**担当講師：中井 敏博（広島大学大学院生物圏科学研究科 教授）**

講義概要：細菌感染症を理解するうえで必要な細菌学的基礎知識を整理し（細菌学総論）、海産魚の主要な細菌感染症についてそれらの原因菌、症状・病理、感染機構、診断法、および防除対策を概説する。

### 細菌病

**担当講師：山本 淳（鹿児島大学水産学部 教授）**

講義概要：サケ科魚類、コイ科魚類、ウナギ、アユなどの淡水魚類を養殖する過程で発生する細菌病の歴史、疫学、原因菌の性状、診断方法、対策などについて説明する。また、防疫対策の要点と成功例を紹介する。

### 真菌病

**担当講師：倉田 修（日本獣医生命科学大学 教授）**

講義概要：日本の魚介類（主に淡水魚・海水魚・甲殻類）にこれまで発生した真菌病（菌類に起因する病気）について、できるだけスライドを多く使用して概説する。魚介類に発生する真菌病は、卵菌類と不完全菌類が主な原因であるが、各菌類の特徴について説明する。また、真菌病の診断に欠かせない生検観察、分離培養技術および同定法について解説する。現場で真菌病が発生した場合、正確な病名と原因菌の属名を報告書などに記載できる程度の知識を習得する。

### 寄生虫病

**担当講師：小川 和夫（公益財団法人 目黒寄生虫館 館長）**

講義概要：寄生生物の定義、分類、生態についての総論的解説をする。魚介類養殖において発生する寄生虫病（原虫類を除く）について解説する。また、公衆衛生、食品安全面において問題となる寄生虫についても解説する。

### 寄生虫病

**担当講師：良永 知義（東京大学大学院農学生命科学研究科 教授）**

講義概要：魚類疾病の原因となる原虫のうち肉質べん毛虫門、せん毛虫門に属する原虫、および貝類などの疾病の原因となる原虫について、概説する。重大疾病の原因種については、形態、生活史、診断法、対処法を説明する。この講義により、これらの分類群に属する原虫類への基礎的知識ならびに対策を考えるうえでの基本的な考え方の習得を目指す。

### 寄生虫病

**担当講師：横山 博（東京大学大学院農学生命科学研究科 助教）**

講義概要：粘液胞子虫と微胞子虫の分類学、形態学、生活環などの生物学的特徴について概説する。次に、種苗生産や養殖現場で発生する代表的な疾病の特徴について解説し、粘液胞子虫病と微胞子虫病の診断と対策についての知識を習得することを目標とする。

### 藻類学総論

**担当講師：藤田 大介（東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科 准教授）**

講義概要：藻類全般と海藻の分類を概説したうえで、海藻の増養殖の基礎として、生育環境、生理・生活史、増養殖の実際および疾病についての講義を行う。

### ウイルス実習

**担当講師：佐野 元彦（東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科 教授）**

**坂本 崇（東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科 教授）**

**片桐 孝之（東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科 助教）**

**加藤 豪司（東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科 助教）**

講義概要：ウイルス検査のための細胞培養技術、ウイルス分離操作とCPE観察、分離されたウイルスの同定（中和試験）を行う。

### 細菌実習

**担当講師：廣野 育生（東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科 教授）**

**近藤 秀裕（東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科 准教授）**

講義概要：本実習ではヒラメの病原細菌 *Edwardsiella tarda* を材料とし、細菌学基礎実習および感染実験について実習するとともに、ブリ類の病原細菌である *Photobacterium damsela* subsp. *piscicida* および *Lactococcus garvieae* を材料とし、薬剤感受性試験などについて実習する。生化学的性状試験では種々の魚病細菌を使用する。

### 真菌実習

担当講師：倉田 修（日本獣医生命科学大学 教授）

講義概要：養殖魚介類で問題となる代表的な真菌病の原因菌について、分離培養法や、同定法などに関する手法を研修する。

### 寄生虫実習

担当講師：良永 知義（東京大学大学院農学生命科学研究科 教授）

伊藤 直樹（東京大学大学院農学生命科学研究科 准教授）

横山 博（東京大学大学院農学生命科学研究科 助教）

講義概要：魚介類の解剖を行って寄生虫を採取することで、解剖の方法、分類群ごとに異なる標本作製法および観察の仕方について学ぶ。原虫類から大型の寄生虫までの同定、診断に必要とされる手技手法を学ぶことを目的とする。

### 魚類免疫学

担当講師：中西 照幸（日本大学生物資源科学部 教授）

講義概要：免疫学の基礎、魚類の免疫系、水産用ワクチン、免疫学的手法について概説する。養殖魚の健康管理技術の基盤となる、魚類免疫学の習得を目標とする。なお、水産用ワクチンの使用にあたっては、法令により、使用場所を管轄する都道府県の水産試験場等の指導機関による指導が義務づけられている。注射技術についても事前に指導機関による研修が必須である。そのため、これらの指導・研修の際に必要な免疫学の知識を重点的に解説する。

### 魚類病理学

担当講師：三輪 理（水産研究・教育機構 増養殖研究所 魚病診断・研修センター センター長）

講義概要：病理学の基礎、特に炎症反応のメカニズムを理解する。水産動物の病理組織学的診断法の特徴を理解する。多くの魚病に共通した形態学的な症状とその発生機構を理解する（本講義は組織学者の養成を念頭に置くものではないので、詳細な組織学の各論は講義しない）。

### 魚類生理学

担当講師：大久保 範聡（東京大学大学院農学生命科学研究科 准教授）

講義概要：本講義では、魚類の生理学的特性を理解するための基礎的知見を概説する。なかでも、水産増養殖業に直結する性決定・性分化機構や配偶子形成機構、ならびに胚発生機構や発生工学に重点を置き、解説を進める。

### 魚類飼養学

担当講師：佐藤 秀一（東京海洋大学海洋科学部 教授）

講義概要：養殖魚の健全な育成には優れた性能を有する配合飼料の開発が必要であるため、その基礎となる情報としての魚類の栄養と物質代謝に関する知識の習得を目指す。

### 魚類薬理学

担当講師：大嶋 雄治（九州大学農学研究院 教授）

講義概要：本講義では、魚類において薬効に直結する、医薬品の吸収、体内分布、代謝、排泄に及ぼす内的・外的因子を概説し、毒性学にも踏み込む。

## ● 平成 29 年度養殖衛生管理技術者養成研修 ● 開催予定

平成 29 年度養殖衛生管理技術者養成 本科基礎コース 研修

日時：平成 29 年 6 月 20 日（火）～ 6 月 30 日（金）

場所：公益社団法人日本水産資源保護協会 3F 研修室

平成 29 年度養殖衛生管理技術者養成 行政コース研修

日時：平成 29 年 6 月 20 日（火）～ 6 月 21 日（水）

場所：公益社団法人日本水産資源保護協会 3F 研修室

※「本科基礎コース研修」と同時開催

## マリン・エコラベル・ジャパンの認証を取得しました

### マリン・エコラベル・ジャパン (MEL ジャパン) とは

水産資源と海にやさしい漁業を応援する制度として2007年12月に発足しました。この制度は、資源と生態系の保護に積極的に取り組んでいる漁業を認証し、その製品に水産エコラベルをつけることにより、このような漁業を奨励・促進するものです。当協会はマリン・エコラベル・ジャパンの審査機関です。

今回、マリン・エコラベル・ジャパンの生産段階認証および流通加工段階認証を4業種3社が新たに取得しました。認証された内容は次のとおりです。

### 沖縄伊平屋村そでいか旗流し漁業

#### 生産段階認証

認証番号：JFRCA78AA

対象者：Marine Link株式会社

対象漁業者：伊平屋村漁業協同組合所属漁船3隻

認証対象魚種：ソデイカ

漁獲方法：旗流し漁業

漁場：沖縄県周辺海域

漁業の概要：平成元年に久米島漁業協同組合が兵庫県の但馬から漁具を導入して操業が行われ、その後、漁具の改良(樽流し漁法を改良した旗流し漁法)を重ねながら沖縄県各地に急速に普及し、沖縄県の漁師の生活を支える重要な漁業へと成長している。ソデイカは毎年11月に漁が解禁され、6月いっぱいまでが漁業期間である。

旗流し漁は、釣縄漁法的一种であるため、対象種以外には漁獲物がなく、無用な漁獲の回避が自然になされている。また、沖縄県水産海洋技術センターが漁獲量等の把握を継続的に行っている。



ソデイカ

### 沖縄北部まぐろ一本釣・曳縄漁業

#### 生産段階認証

認証番号：JFRCA78AB

対象者：Marine Link株式会社

対象漁業者：伊平屋村漁業協同組合所属漁船3隻

国頭漁業協同組合所属船15隻

伊江漁業協同組合所属船10隻

宮古島漁業協同組合所属船9隻

伊良部漁業協同組合所属船5隻

八重山漁業協同組合所属船28隻

認証対象魚種：マグロ類(キハダ、メバチ、ビンナガ、クロマグロ)

漁獲方法：一本釣・曳縄

漁場：沖縄県北部海域

漁業の概要：沖縄県伊平屋村漁業協同組合の3隻は、主にキハダ、メバチ、ビンナガを対象として、沖縄県北部海域の浮漁礁周辺にて集魚灯を用いた一本釣漁で操業している。小型の漁船に、錘付きコマセ袋と針からなる漁具(仕掛け)を積載して漁を行う。

漁業者等は国等が実施している調査や規制等を的確に認識し遵守し、無用な漁獲は回避している。



メバチ

### 流通加工段階認証

認証番号：JFRCA48AAAA

対象者：Marine Link 株式会社

原材料種：ソデイカ

(生産段階認証番号 JFRCA78AA)

マグロ類

(生産段階認証番号 JFRCA78AB)

流通加工段階：認証水産物の流通加工及び販売

### 沖縄・鹿児島深海さんご ROV 漁業

#### 生産段階認証

認証番号：JFRCA36AD

対象者：深田サルベージ建設株式会社

対象漁業者：深田サルベージ建設株式会社が所有する2隻

認証対象魚種：アカサング、モモイロサング、シロサング

漁獲方法：水中作業ロボット (ROV) による採取  
漁場：沖縄県・鹿児島県地先沖合

漁業の概要：深海ROVとそのマニピュレータを使用する漁法は、一定の大きさ以上に生育した深海サングだけを視覚的に選択・採取することが可能で、完全に混獲を防ぐことができ、一本ずつ直接、丁寧に採取するので、周囲の生態系に与えるインパクトは極めて小さい。また万が一取りこぼしても、元の場所に潜航し回収することが可能であり、資源の無駄を生じない。

#### 流通加工段階認証

認証番号：JFRCA36ADAA

対象者：深田サルベージ建設株式会社

原材料種：アカサング、モモイロサング、シロサング



深海 ROV (はくよう 3000)

(生産段階認証番号 JFRCA36AD)

流通加工段階：認証水産物の流通加工及び販売

### 伊豆下田きんめだい底立延縄漁業

#### 生産段階認証

認証番号：JFRCA47AB

対象者：宇都宮水産株式会社

対象漁業者：宇都宮水産株式会社が所有する3隻

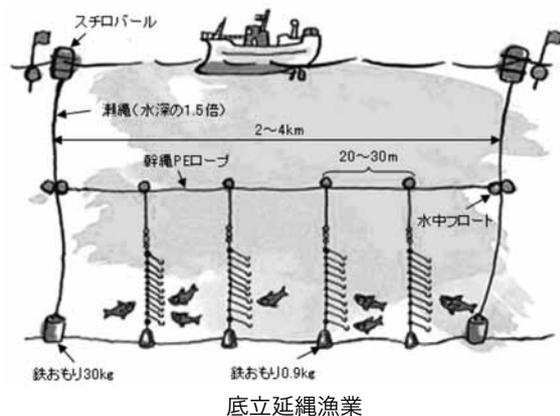
認証対象魚種：キンメダイ (ナンヨウキンメ、フウセンキンメを含む)

漁獲方法：底立延縄漁業

漁場：伊豆諸島周辺沖合

漁業の概要：キンメダイを漁獲している主な地域は、千葉県、東京都、神奈川県、静岡県および高知県の一都四県であり、主に房総沖から伊豆半島周辺、伊豆諸島周辺および室戸岬周辺の海域で立縄漁業やえ縄漁業により漁獲されているほか、小笠原公海およびその周辺海域では底刺し網漁業等でも漁獲されている。当該申請漁船については、漁船法に基づく漁船登録が静岡県知事から交付されている。キンメダイ漁業については、「底立てはえ縄漁業許可証」が東京都知事・静岡県知事から交付されている。

漁業者はキンメダイの生態の特徴をもとに、各県で定めた「資源管理措置」や各地区の取り決めに従って、小型魚や親魚の保護など、キンメダイ資源を永続的に利用するための取り組みを行っている。





キンメダイ

**流通加工段階認証**

認証番号：JFRCA47ABAA

対象者：宇都宮水産株式会社

原材料魚種：キンメダイ（ナンヨウキンメ、フウセンキンメを含む）

（生産段階認証番号 JFRCA47AB）

流通加工段階：認証水産物の流通加工及び販売

**養殖エコラベルの認証を取得しました****養殖エコラベル：Aquaculture Eco-Label（AEL）とは**

持続可能な養殖業の発展に資するための、FAO（国連食糧農業機関）の養殖認証に関する技術的ガイドラインに基づき、ISO 認証の仕組みに沿った認証制度です。当協会は、認証機関として第三者の立場で AEL 取得希望者が取得基準を満たしているか審査を行います。

今回、養殖エコラベルの生産段階認証および流通加工段階認証を 17 業種 7 社が新たに取得しました。認証された内容は次のとおりです。

**和歌山丸八水産まだい養殖****生産段階認証**

認証番号：JFRCA31702 A

対象者：丸八水産有限会社

認証対象魚種：マダイ

養殖漁場：和歌山県串本町大島・浅海漁場

養殖方法：小割生簀養殖法

概要：丸八水産のマダイ養殖では、近畿大学水産研究所が紀伊水道の地先の地元系群から選抜して開発した種苗を 100% 使用している。飼育密度を低くし、稚魚期から成魚まですべて市販のマダイ用人工配合飼料を使用して適正給餌に努めることで、好適な漁場環境の維持と飼育魚のストレス軽減



丸八水産漁場



丸八水産位置図



マダイ

がなされ健康なマダイを安定的に供給している。

### 流通加工段階認証

認証番号：JFRCA31702AA

対象者：丸八水産有限会社

原材料魚種：マダイ(生産段階認証JFRCA31702A)

認証加工段階：認証水産物の流通加工及び販売

### 宮城ニチモウぎんざけ養殖

#### 生産段階認証

認証番号：JFRCA41702A

対象者：株式会社ニチモウマリカルチャー

認証対象魚種：ギンザケ

養殖漁場：宮城県雄勝湾・女川湾地先

養殖方法：小割生簀養殖法

概要：ニチモウマリカルチャーのギンザケ養殖では、複数の生産者からなる「ニチモウ養殖ギンザケ会」を設置し、作業機器、飼料の管理に至るま



ギンザケ



ニチモウマリカルチャー位置図

でマニュアル・作業手順書を作成し、一定の高い品質を確保している。また各生産者の記録は一元管理され、すべての段階での生産履歴が明確化されている。同社では独自開発した『活メ(血抜き処理した水揚げ方法)』を用いることで、より鮮度の良い状態での出荷が可能であり、細かな顧客ニーズに対応している。

### 流通加工段階認証

認証番号：JFRCA41702AA

対象者：株式会社ニチモウマリカルチャー

原材料魚種：ギンザケ

(生産段階認証JFRCA41702A)

認証加工段階：認証水産物の流通加工及び販売

### 滋賀木村水産あゆ養殖

#### 生産段階認証

認証番号：JFRCA51703A

対象者：木村水産株式会社

認証対象魚種：アユ

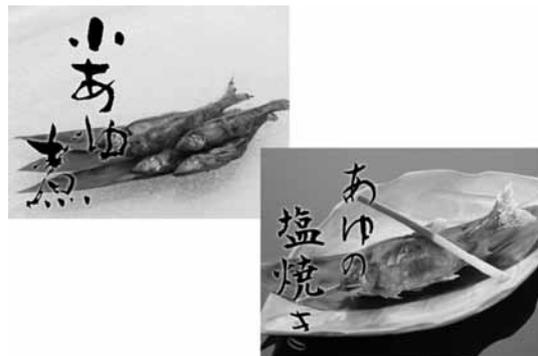
養殖漁場：滋賀県彦根市後三条町内

養殖方法：掛け流し式池中養殖法

概要：木村水産では、資源管理計画に基づき採捕された琵琶湖特有の小型の『小鮎(コアユ)』を種苗としている。河川上流部と同じ速さの流れを養殖池の中に作り、また独自開発した餌を使用することにより、天然物に負けない身質、香りのアユを生産している。

### 流通加工段階認証

認証番号：JFRCA51703AA



木村水産の製品

対 象 者：木村水産株式会社  
 原材料魚種：アユ(生産段階認証 JFRCA51703A)  
 認証加工段階：認証水産物の流通加工及び販売



木村水産所在地

## 愛南漁業協同組合 10 業種

愛南漁業協同組合の漁場は温暖な気候と潮流に恵まれ、魚類養殖に非常に適した環境にある。同組合では全国一の生産量を誇るマダイをはじめ、10 魚種の養殖エコラベルを取得した。

愛南漁業協同組合の養殖エコラベル参加業者は、種苗導入から出荷までのすべての工程を詳細な「愛南漁協安心安全魚類養殖手順書」に準じて養殖を行っている。また愛南町、愛媛大学南予水産研究センターと連携し、水質調査の情報提供サイト、魚の健康診断や魚病検査を行う「魚病診断室」を設置している。そのため、赤潮、疾病に対する早期対策が図られ、安心安全かつ安定的な生産体制を構築している。



愛南漁協漁場



愛南漁協漁場位置図

## 愛媛愛南漁協まだい養殖

### 生産段階認証

認 証 番 号：JFRCA61703 A

対 象 者：愛南漁業協同組合

認証対象魚種：マダイ

養 殖 漁 場：愛媛県愛南町地先

養 殖 方 法：小割生簀養殖法

概 要：

- ・年間12,370tを生産(全国市町村別生産量2位)。
- ・人工種苗を使用。
- ・飼料は固形のドライペレット、エクストルーダペレットを使用し、環境負荷に配慮している。



マダイ



マダイ養殖漁場

### 流通加工段階認証

認証番号：JFRCA61703AA  
 対象者：愛南漁業協同組合  
 原材料魚種：マダイ(生産段階認証JFRCA61703A)  
 認証加工段階：認証水産物の流通加工及び販売

### 愛媛愛南漁協ぶり養殖

#### 生産段階認証

認証番号：JFRCA71703A  
 対象者：愛南漁業協同組合  
 認証対象魚種：ブリ  
 養殖漁場：愛媛県愛南町地先  
 養殖方法：小割生簀養殖法  
 概要：  
 ・年間3,399tを生産(全国市町村別生産量7位)。  
 ・養殖密度に配慮するなど、健康な魚づくり。  
 ・固形のエクストルーダペレットを使用し、環境負荷に配慮している。

#### 流通加工段階認証

認証番号：JFRCA61703AA  
 対象者：愛南漁業協同組合  
 原材料魚種：ブリ(生産段階認証JFRCA71703A)  
 認証加工段階：認証水産物の流通加工及び販売



ブリ



ブリ養殖漁場

### 愛媛愛南漁協かんぱち養殖

#### 生産段階認証

認証番号：JFRCA81703A  
 対象者：愛南漁業協同組合  
 認証対象魚種：カンパチ  
 養殖漁場：愛媛県愛南町地先  
 養殖方法：小割生簀養殖法  
 概要：  
 ・年間3,345tを生産(全国市町村別生産量5位)。  
 ・防疫の観点から、輸入の天然種苗は愛南町の魚類防疫士の立会いのもと導入している。

#### 流通加工段階認証

認証番号：JFRCA61703AA  
 対象者：愛南漁業協同組合  
 原材料魚種：カンパチ  
 (生産段階認証JFRCA81703A)  
 認証加工段階：認証水産物の流通加工及び販売



カンパチ



カンパチ養殖漁場

### 愛媛愛南漁協しまあじ養殖

#### 生産段階認証

認証番号：JFRCA91703A  
 対象者：愛南漁業協同組合  
 認証対象魚種：シマアジ  
 養殖漁場：愛媛県愛南町地先

養殖方法：小割生簀養殖法

概要：

- ・年間245tを生産（全国市町村別生産量4位）。
- ・種苗は人工種苗であり、愛南漁業協同組合が窓口となり購入している。
- ・飼料はモイストペレットに加え固形のエクストルーダペレットも使用し、環境負荷に配慮している。

#### 流通加工段階認証

認証番号：JFRCA61703AA

対象者：愛南漁業協同組合

原材料魚種：シマアジ

（生産段階認証JFRCA91703A）

認証加工段階：認証水産物の流通加工及び販売



シマアジ



シマアジ養殖漁場

#### 愛媛愛南漁協さつきます養殖

##### 生産段階認証

認証番号：JFRCA101703A

対象者：愛南漁業協同組合

認証対象魚種：サツキマス

養殖漁場：愛媛県愛南町地先

養殖方法：小割生簀養殖法

概要：

- ・年間0.6tを生産。
- ・種苗は人工種苗であり、愛南町産のアマゴ稚魚を海水馴致して養殖を行っている。

- ・固形のエクストルーダペレットを使用し、環境負荷に配慮している。

#### 流通加工段階認証

認証番号：JFRCA61703AA

対象者：愛南漁業協同組合

原材料魚種：サツキマス

（生産段階認証JFRCA101703A）

認証加工段階：認証水産物の流通加工及び販売



サツキマス



サツキマス養殖漁場

#### 愛媛愛南漁協くえ養殖

##### 生産段階認証

認証番号：JFRCA111703A

対象者：愛南漁業協同組合

認証対象魚種：クエ

養殖漁場：愛媛県愛南町地先

養殖方法：小割生簀養殖法

概要：

- ・年間4.5tを生産。
- ・種苗は人工種苗であり、愛南漁業協同組合が窓口となり購入している。
- ・固形のエクストルーダペレットを使用し、環境負荷に配慮している。

#### 流通加工段階認証

認証番号：JFRCA61703AA

対象者：愛南漁業協同組合

原材料魚種：クエ(生産段階認証JFRCA111703A)  
 認証加工段階：認証水産物の流通加工及び販売



クエ



クエ養殖漁場

### 愛媛愛南漁協かわはぎ養殖

#### 生産段階認証

認証番号：JFRCA121703A

対象者：愛南漁業協同組合

認証対象魚種：カワハギ

養殖漁場：愛媛県愛南町地先

養殖方法：小割生簀養殖法

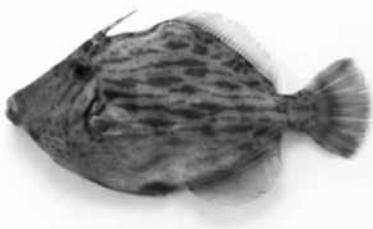
概要：

- ・年間2.4tを生産。
- ・人工種苗を用い、天然資源に配慮している。
- ・固形のエクストルーダペレットを使用し、環境負荷に配慮している。

#### 流通加工段階認証

認証番号：JFRCA61703AA

対象者：愛南漁業協同組合



カワハギ

原材料魚種：カワハギ  
 (生産段階認証 JFRCA121703A)  
 認証加工段階：認証水産物の流通加工及び販売



カワハギ養殖漁場

### 愛媛愛南漁協すずき養殖

#### 生産段階認証

認証番号：JFRCA131703A

対象者：愛南漁業協同組合

認証対象魚種：スズキ

養殖漁場：愛媛県愛南町地先

養殖方法：小割生簀養殖法

概要：

- ・年間200tを生産。
- ・人工種苗を用い、天然資源に配慮している。
- ・固形のエクストルーダペレットを使用し、環境負荷に配慮している。



スズキ



スズキ養殖漁場

**流通加工段階認証**

認証番号：JFRCA61703AA

対象者：愛南漁業協同組合

原材料魚種：スズキ

(生産段階認証JFRCA131703A)

認証加工段階：認証水産物の流通加工及び販売

**愛媛愛南漁協すま養殖****生産段階認証**

認証番号：JFRCA141703A

対象者：愛南漁業協同組合

認証対象魚種：スマ

養殖漁場：愛媛県愛南町地先

養殖方法：小割生簀養殖法

概要：

- ・年間1.3tを生産。
- ・愛媛県水産研究センター産の完全養殖種苗を使用している。
- ・生産履歴がすべて明らかなスマを生産している。

**流通加工段階認証**

認証番号：JFRCA61703AA

対象者：愛南漁業協同組合

原材料魚種：スマ(生産段階認証JFRCA141703A)

認証加工段階：認証水産物の流通加工及び販売



スマ



スマ養殖漁場

**愛媛愛南漁協くるまぐる養殖****生産段階認証**

認証番号：JFRCA151703A

対象者：愛南漁業協同組合

認証対象魚種：クロマグロ

養殖漁場：愛媛県愛南町地先

養殖方法：小割生簀養殖法

概要：

- ・平成29年秋、70t出荷予定。
- ・愛南町産、自社産の種苗を使い、完全養殖を実現、天然資源の保護に寄与している。
- ・生産履歴がすべて明らかな安心安全なクロマグロ養殖が可能である。

**流通加工段階認証**

認証番号：JFRCA61703AA

対象者：愛南漁業協同組合

原材料魚種：クロマグロ

(生産段階認証JFRCA151703A)

認証加工段階：認証水産物の流通加工及び販売



クロマグロ



クロマグロ養殖漁場

**沖縄マリンリンクはた類養殖****生産段階認証**

認証番号：JFRCA161703A

対象者：Marine Link 株式会社

認証対象魚種：ヤイトハタ、チャイロマルハタ養  
殖 漁 場：伊平屋村漁業協同組合敷地内  
養 殖 方 法：陸上閉鎖式養殖法

概 要： Marine Link 株式会社では、ハタ類  
を陸上閉鎖式養殖で養殖している。利用海水を紫外  
線、銅イオン殺菌することで、シガテラ毒のリスク  
が抑えられ、また水槽ごとに生産履歴管理を行いト  
レーサビリティに対応している。稚魚期の生残率が高  
いという特徴があり、安定した品質のハタ類の生産  
が可能である。

#### 流通加工段階認証

認 証 番 号： JFRCA161703AA

対 象 者： Marine Link 株式会社

原材料魚種： ヤイトハタ、チャイロマルハタ  
(生産段階認証 JFRCA161703A)

認証加工段階： 認証水産物の流通加工及び販売



ヤイトハタ  
出典：沖縄県漁業協同組合連合会



沖縄県伊平屋島

## 沖縄マリンリンクもずく類養殖

#### 生産段階認証

認 証 番 号： JFRCA171703A

対 象 者： Marine Link 株式会社

認 証 対 象 種： オキナワモズク、モズク

養 殖 漁 場： 伊平屋島周辺の浅海海域

養 殖 方 法： モズクひび建て式養殖法

概 要： モズク養殖では、沖縄県水産海洋技  
術センターが開発した高品質の品種のたねを 100%  
使用し、安定した気候から通常より長期間 (2月中  
旬~7月)、モズクの収穫が可能である。

#### 流通加工段階認証

認 証 番 号： JFRCA161703AA

対 象 者： Marine Link 株式会社

原 材 料 種： オキナワモズク、モズク

(生産段階認証 JFRCA171703A)

認証加工段階： 認証水産物の流通加工及び販売

## 三重伊勢まぐろ養殖

#### 生産段階認証

認 証 番 号： JFRCA181703A

対 象 者： 株式会社ブルーフィン三重

認証対象魚種： クロマグロ

養 殖 漁 場： 神前浦

養 殖 方 法： 小割生簀養殖法

概 要： 国内のクロマグロ養殖漁場として  
は最北東に位置し、養殖漁場の神前浦は伊勢神宮に  
ゆかりのある地名であることから『伊勢まぐろ』と  
名付け、ブランド化している。ブルーフィン三重で  
は徹底した資源管理のもと1尾ずつ釣り上げられた  
地元産の稚魚を使用し、飼料会社と共同研究開発し  
た飼料で成長度合い、季節や環境に合わせた給餌を  
行い、健康管理を徹底している。

#### 流通加工段階認証

認 証 番 号： JFRCA181703AA

対 象 者： 株式会社ブルーフィン三重

原材料魚種：クロマグロ  
 (生産段階認証JFRCA181703A)  
 認証加工段階：認証水産物の流通加工及び販売



クロマグロ水揚げの様子



ブルーフィン三重所在地

### 三重伊勢まだい養殖

#### 生産段階認証

認証番号：JFRCA191703A  
 対象者：三重県海水養魚協議会(伊勢まだい生産者部会)

認証対象魚種：マダイ

養殖漁場：熊野灘

養殖方法：小割生簀養殖法

概要：伊勢まだい生産者部会では、海藻、かんきつ類、茶(伊勢茶)のミックス粉末を添加した餌を一定量給餌することを伊勢まだい生産基準として設定しており、余分な脂の少ない、鮮度保持期間の長い高品質なマダイを計画的に生産している。

また出荷中の伊勢まだいについて、三重県海水養魚協議会のホームページで生産者別の養殖生産履歴情報を公表している。

#### 流通加工段階認証

認証番号：JFRCA191703AA

対象者：三重県海水養魚協議会(伊勢まだい生産者部会)

原材料魚種：マダイ

(生産段階認証JFRCA191703A)

認証加工段階：認証水産物の流通加工及び販売



伊勢まだい



伊勢まだい養殖漁場

## 国産水産物流通促進事業

### ○平成 28 年度目詰まり指導実績

流通の目詰まり解消に向けた指導を受けたい、流通の目詰まり解消に取り組みたいがその方法が分からない、先進事例やニーズを紹介してほしいなど、要望に応じて適任の指導員を紹介し、流通の各段階への指導を行いました。

### 平成 28 年度目詰まり指導 77 件

北海道	1	上磯郡漁業協同組合	東京	32	一般社団法人日本ビジネス政策総合研究所	
	2	丸本 本間水産株式会社	神奈川	33	有限会社三富屋	
	3	株式会社丸きふたみ産業	福井	34	小浜海産物株式会社	
	4	エスエス冷蔵株式会社	静岡	35	株式会社丸賢商店	
	5	平冷プロマリン株式会社		36	株式会社御前崎フーズ	
	6	松前さくら漁業協同組合		37	有限会社浅角	
	7	三印 三浦水産株式会社		38	静岡市水産物商業協同組合	
	8	ひやま漁業協同組合 奥尻支所		39	宇都宮水産株式会社	
青森	9	青森県漁業協同組合連合会	愛知	40	ヤマサちくわ株式会社	
	10	ぜんぎょれん八戸食品株式会社		41	有限会社まんてん	
	11	株式会社山神		42	カネ成海産	
	12	株式会社ヤマイン		43	有限会社まると水産	
	13	株式会社マルヌシ	三重	44	有限会社丸久水産	
岩手	14	岩手県漁業協同組合連合会	45	株式会社飯田商店		
	15	鎌田水産株式会社	京都	46	舞鶴かまぼこ協同組合	
	16	釜石ヒカリフーズ株式会社	大阪	47	株式会社和	
宮城	17	株式会社鮮冷		48	横田水産	
	18	株式会社塩釜魚市場		49	大阪府漁業協同組合連合会	
	19	宮城県漁業協同組合 石巻地区支所		50	株式会社アプロジャパン	
秋田	20	男鹿冷凍株式会社	兵庫	51	兵庫県漁業協同組合連合会	
茨城	21	株式会社津久勝	和歌山	52	株式会社財文水産	
群馬	22	赤城水産株式会社	島根	53	株式会社シーライフ	
	千葉	23	株式会社大一奈村魚問屋	広島	54	有限会社桂馬商店
		24	有限会社鈴木安太郎商店	山口	55	はねうお食品株式会社
		25	株式会社SeaBank	徳島	56	徳島市漁業協同組合
		26	千葉県漁業協同組合連合会		57	株式会社ヒロ・コーポレーション
27	有限会社スズ市水産	愛媛	58	八水蒲鉾株式会社		
東京	28		株式会社喜代村	59	愛南漁業協同組合	
	29		共同水産株式会社	60	宝水産有限会社	
	30		全水加工連販売株式会社	61	株式会社ヨンキュウ	
	31		MSC (海洋管理協議会)	62	壬生川漁業協同組合	

愛媛	63	愛南町水産課(町内の加工業者を対象)
	64	三崎漁業協同組合
	65	有限会社エスペランス
	66	遊子漁業協同組合
	67	今治市役所(市内の加工業者を対象)
高知	68	村上海産((株)カワクボ製作所水産事業部)
福岡	69	株式会社博水
	70	株式会社ワイエムティー

福岡	71	株式会社翔進産業
長崎	72	株式会社天洋丸
大分	73	大分県漁業協同組合
宮崎	74	ミツイ水産株式会社
鹿児島	75	風人丸
	76	有限会社水口松夫水産
	77	特定非営利法人エコ・リンク・アソシエーション

平成 28 年度水産資源保護啓発研究事業

平成 28 年度に実施した巡回教室、コンサルタント派遣、ブロック研修会の概要は以下のとおり。  
季報 548 ～ 550 号で報告済みのものは除き掲載しています。\*表の「回」は通し番号です。

巡回教室の開催

回	開催日	派遣依頼 機 関	開催場所	課 題	内 容	講師氏名 (敬称略)
15	11月30日	福岡県	朝倉市	カワウ被害防止 対策について	カワウについて①生息数の推移 ②生理・生態 ③鵜的フェーズ ④減らすための三本柱(個体群管理、被害対策、生息地管理)について解説を受ける。また対策等は実施後に評価し、その反省を翌年に繋げることが重要であり、カワウ対策の目標は「カワウとの共生」であるとした。	バードリサーチ 加藤ななえ
16	1月25日	山梨県	甲斐市	淡水魚類養殖に おける防疫対策 —マス類養殖の 実例を中心に—	防疫対策で最も重要なのは病原体を養殖場内に入れないことであり、各養殖場の状況に応じた防疫対策を選ぶことが合理的であるとした。また、外照式紫外線殺菌装置を用いた飼育水消毒や消毒剤を用いた養殖施設の防疫対策の考え方、消毒剤使用の際の注意点について解説を受ける。	岐阜県農政 部里川振興 課 中居裕
17	2月16日	青森県	十和田市	魚介類の寄生虫 と食品安全につ いて	魚介類を中間宿主とする人体寄生虫について紹介があり、食品安全について質疑応答を行った。	目黒寄生虫 館 小川和夫
18	2月20日	鹿児島県	いちき 串木野市	南九州のアオリ イカ資源の現状 と増殖について	アオリイカの種類、南九州における資源と特徴、生態、産卵場の条件について解説を受ける。また、南九州のアオリイカ資源を構成するアカイカとシロイカは生態が異なるため、対象種にあった保護活動が必要であり、人工的な産卵サポートは一定の効果があると考えられる、と解説を受ける。	広島大学大 学院博士課 程 菅野哲史
19	3月2日	新潟県	小千谷市	ニシキゴイ養殖 における病害防 除のための知見	KHV、SVC、レッドマウス病、眠り病等の疾病、試験場等の能力の評価に関する国際規格ISO17025、インドネシアでのニシキゴイ養殖について等の知見について紹介を受ける。	増養殖研究 所 湯浅啓
20	3月8日	栃木県	宇都宮市	長良川におけ る漁場活性化 に向けた取組 について	長良川の漁場活性化に向けた ①アユ資源の増加 ②漁協経営の改善 ③アユの付加価値の向上 ④良好な川づくり ⑤幅広い層への利用促進等の取組について紹介を受ける。	郡上漁業協 同組合 白滝治郎

コンサルタントの派遣

回	開催日	派遣依頼 機関	開催場所	課 題	内 容	講師氏名 (敬称略)
1	2月21日	広島県	三次市	総合的なカワウ 被害防止手法の 立案と実施につ いて	野生動物管理は生息地・被害・個体数の3 つの管理により行うが、その中で被害および 個体数を管理する手法の一つに捕獲がある。 この捕獲について、課題、技術の概要、効果 的な実施のポイントについて解説があった。 また、個体数管理の事例、空気銃による捕獲 技術について紹介を受けた。	(株) 野生動物保護管理 事務所関西分 室 加藤洋

ブロック研修会の開催

回	開催日	派遣依頼 機関	開催場所	会議名称	課 題	講師氏名 (敬称略)
5	2月2～ 3日	岡山県	東京都 港区	全国湖沼河川養 殖研究会アユ資 源研究部会	アユ集団の遺伝的多様性	東北大学大 学院 池田実

平成 29 年度水産資源保護啓発研究事業

平成 29 年度の巡回教室・コンサルタント派遣・ブロック研修会における講師派遣事業の認定、および平成 29 年度漁村研究実践活動の認定を決定しましたのでお知らせ致します。

平成 29 年度 巡回教室・コンサルタント派遣事業課題一覧

都道府県	区 別	開催場所	派遣予定講師		課 題
青森	巡回教室	十和田市	佐野 雅昭	鹿児島大学 水産学部	世界のサケマス類養殖と日本のサー モン市場
岩手	巡回教室	盛岡市	安田 陽一	日本大学 理工学部土木 工学科	魚道の機能評価と簡易魚道等による 改修方法について
	巡回教室	盛岡市	山本 麻希	長岡技術科学大学 工学 研究科	カワウの効果的な被害防止対策
山形	巡回教室	酒田市	木村 裕治	水産研究・教育機構 中 央水産研究所	サメ・エイ類の効果的な鮮度保持技 術について (仮)
	巡回教室	鶴岡市	安田 陽一	日本大学 理工学部土木 工学科	河川環境改善と魚道の機能を利用し たサケ科魚類の産卵域拡大
	コンサルタント	鶴岡市	片町 太輔	水産研究・教育機構 瀬 戸内海区水産研究所	トラフグの生態と放流効果について (仮)
福島	巡回教室	矢祭町	中村 智幸	水産研究・教育機構 中 央水産研究所 内水面研 究センター	内水面の環境保全と遊漁振興
栃木	巡回教室	宇都宮市	安田 陽一	日本大学 理工学部土木 工学科	(仮) 魚が利用しやすい魚道と魚にや さしい川づくりをめざして
群馬	巡回教室	前橋市	吉崎 悟朗	東京海洋大学	魚類の生殖
埼玉	巡回教室	加須市	中村 智幸	水産研究・教育機構 中 央水産研究所 内水面研 究センター	近年の遊漁者の実態について

都道府県	区 別	開催場所	派遣予定講師		課 題
石川	巡回教室	金沢市	未定	水産研究・教育機構 中央水産研究所 (日光庁舎)	イワナ、ヤマメ、アユの資源について
山梨	コンサルタント	甲斐市	佐藤 将	新潟県内水面水産試験場	観賞魚輸出の現状と問題
	コンサルタント	甲斐市	中村 智幸	水産研究・教育機構 中央水産研究所 内水面研究センター	内水面漁協の現状と経営安定化のための方策について
	ブロック研修会 (第42回全国養鱒技術協議会大会)	港区	坂本 崇	東京海洋大学 海洋科学部	国内外の水産養殖における育種の現状と将来展望について
長野	ブロック研修会 (全国湖沼河川養殖研究会 アユ資源研究部会)	港区	内田 和男	全国内水面漁業協同組合連合会	アユの個体群動態と放流効果
	巡回教室	安曇野市	瀬尾 重治	近畿大学 東南アジア事業場長	魚を作って売って儲ける方法
静岡	巡回教室	静岡市	浜野 龍夫	徳島大学 生物資源産業学部	「水辺のこわざ魚道」とは
愛知	巡回教室	半田市	松岡 聡	香川県水産試験場 増養殖研究部門	香川県におけるノリ養殖業の現状と課題
滋賀	ブロック研修会 (全国湖沼河川養殖研究会 マス類資源研究部会)	東京都	井上 幹生	愛媛大学大学院 理工学研究科	森林とマスの生態
京都	コンサルタント	未定 (京都市内)	安田 陽一	日本大学 理工学部土木工学科	石組み魚道の設置及び既設魚道の改良について
	巡回教室	宮津市	庄司 紀彦	千葉県館山水産事務所 改良普及課	輪採方式によるアワビ漁業振興に関する勉強会
兵庫	巡回教室	豊岡市	上田 祐司	水産研究・教育機構 日本海区水産研究所	日本海西部海域におけるズワイガニの生態と資源動向
和歌山	ブロック研修会 (全国湖沼河川養殖研究会 第90回大会)	和歌山市	井口 恵一郎	長崎大学大学院	水産生物の生息環境保全と21世紀の内水面
			中村 智幸	水産研究・教育機構 中央水産研究所 内水面研究センター	水産生物の生息環境保全と21世紀の内水面
			遠藤 徹	大阪市立大学大学院	水産生物の生息環境保全と21世紀の内水面
	巡回教室	白浜町	大越 徹夫	全国内水面漁業協同組合連合会	良好なアユ漁場を維持するための河川環境保全について
鳥取	巡回教室	鳥取市	浜野 龍夫	徳島大学 生物資源産業学部	水辺の小さな自然再生 魚道に関するおはなし
島根	巡回教室	大田市	内田 明	山口県水産総合研究センター 外海研究部	山陰沿岸域における磯焼け対策について
	巡回教室	松江市	未定	水産研究・教育機構 国際水産資源研究所	日本海におけるクロマグロの資源動向

都道府県	区 別	開催場所	派遣予定講師		課 題
広島	巡回教室	広島市 (予定)	高木 優也	栃木県水産試験場	アユ漁業の復活に向けた取り組みについて
	巡回教室	福山市 (予定)	川村 嘉応	佐賀県有明水産振興センター	のり養殖における環境変化への対策
福岡	巡回教室	朝倉市	浜野 龍夫	徳島大学 生物資源産業学部	「できることから始める水辺再生の取り組み」(仮題)
長崎	巡回教室	対馬市	遠藤 進	日本水産資源保護協会	水産資源の適切な管理と水産エコラベル
	巡回教室	佐々町	井口 恵一郎	長崎大学 環境科学部	アユがもたらす河川環境への影響について
鹿児島	コンサルタント	①奄美市 ②大島郡 与論町	山下 秀幸	水産研究・教育機構 開発調査センター	南西諸島における漁業資源開発調査について
	巡回教室	いちき串木野市	上田 幸男	徳島県立農林水産総合技術支援センター 水産研究課	アオリイカの資源管理と有効利用について
	巡回教室	出水市	川村 嘉応	佐賀県有明水産振興センター	高水温がノリ芽の成長に及ぼす影響とその対策
22 都道府県	35件		37名		

平成29年度漁村研究実践活動助成一覧

県名	申請団体名	課題名	実施予定期間
千葉県	鴨川市漁業協同組合太海海士組合研究会 千葉県鴨川市磯村	アワビの増養殖場造成試験	平成29年4月～ 平成30年3月
石川県	石川県漁業協同組合加賀支所潜水組合 石川県加賀市小塩町	外浦海域におけるイワガキ蓄養技術の開発	平成29年8月～ 平成30年3月
愛知県	アサリ研究会 愛知県西尾市一色町治明	バカガイ資源管理のための生息密度、成長および肥満度の周年変化の把握	平成29年4月～ 平成30年3月
兵庫県	伊保漁業協同組合 兵庫県高砂市高須	延縄垂下式牡蠣養殖の天然幼生の発生状況の把握について	平成29年6月～ 平成29年8月
愛媛県	今治・桜井漁協青年漁業者協議会 愛媛県今治市片原町	二枚貝増殖研究(アサリ)	平成29年4月～ 平成30年3月
大分県	大分県漁業協同組合保戸島支店 大分県津久見市保戸島	漁港内を利用したアワビ類増養殖場造成のための餌料海藻増殖に関する研究	平成29年4月～
鹿児島県	与論町漁業協同組合 青年部 鹿児島県大島郡与論町茶花	与論島環礁内における食害防止の研究	平成29年4月～ 平成30年3月
	おおすみ岬漁業協同組合 鹿児島県肝属郡南大隅町佐多伊座敷	遮光幕を用いた岩盤清掃試験	平成29年4月～ 平成30年3月
7都道府県		8課題	

(公社) 日本水産資源保護協会は以下の規格の認証(認定)機関として認められています。

生産情報公表JAS規格:「日本農林規格」(農林物資の規格化及び品質表示の適正化に関する法律に基づく規格)



食品の生産情報(誰が、どこで、どのように生産したか)を消費者に提供する仕組みとして、「生産情報公表JAS規格」を制定しています。JAS規格制度は、JAS規格を満たしていることを確認した製品にJASマークを付けることができる制度です。国(農林水産大臣)が制定。

MELJapan:『マリン・エコラベル・ジャパン』(Marine Eco-Label Japan)



FAO(国際連合食糧農業機関: Food and Agriculture Organization of the United Nations)の持続可能な漁業の認証のガイドラインに基づき、ISO認証の仕組みに沿った認証制度です。

\*スキームオーナー「一般社団法人 マリン・エコラベル・ジャパン協議会」

\*規格とその認証の仕組みを所有し、運営・維持する主体

AEL:『養殖エコラベル』(Aquaculture Eco-Label)



持続可能な養殖業の発展に資するため、FAOの養殖認証に関する技術的ガイドラインに基づき、ISO認証の仕組みに沿った認証制度です。

スキームオーナー「一般社団法人 日本食育者協会」



● お知らせ ●

「(公社) 日本水産資源保護協会・受託検査について」

当協会では、以下の検査を受託しています。検査の申し込み・詳細は下記までお問い合わせ下さい。

●検査内容

- ・コイヘルペスウイルス(KHV) PCR 検査
- ・コイ科魚類特定疾病検査(KHV およびコイ春ウイルス血症(SVC))
- ・中国向け輸出錦鯉検査
- ・ヒラメのクドア・セブテンpunkタータ検査
- ・カナダ向け輸出餌用マサバの目視検査
- ・ロシア向け輸出水産食品魚病検査(活魚介類検査)
- ・中国向け輸出活水産物検査(目視検査)

●検査方法

農林水産省「特定疾病等対策ガイドライン」、国際獣疫事務局(OIE)監修の疾病診断マニュアルなどに準拠した方法を用います。検査結果は日本語表記あるいは日英文併記の結果報告書を発行します。

●受託検査に関するお問い合わせ・資料請求

公益社団法人 日本水産資源保護協会 受託検査担当

TEL: 03-6680-4277 FAX: 03-6680-4128

E-mail: kensa-jfrca@mbs.sphere.ne.jp

ホームページ: <http://www.fish-jfrca.jp/>

# この漢字はどの魚でしょうか？

ポスター（裏面参照）の内容からの出題です。

平たい体に目が二つ  
並んでいる

魚 𩺰

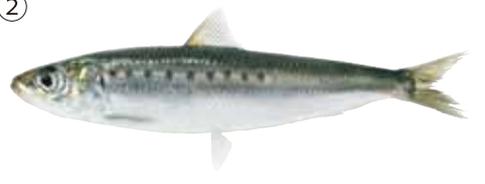
①



昔は刺身で食べず、  
カチカチに堅く乾燥  
させたものが流通し  
ていたから「堅」を  
あてた。

魚 𩺱

②



海を群れで回遊する  
ことから、「參」(=た  
くさん入り混じるの  
意味)をあてた。

魚 𩺲

③



語呂から、一族に幸を  
行き渡らせる「周」(=  
全部に行き渡る意味)  
をあてた。周年獲れる  
魚だからとの説もある。

魚 𩺳

④



春が旬とされたことか  
ら「春」をあてた。春  
に回遊してきて瀬戸内  
海や関西に出現する。

魚 𩺴

⑤



背中が青いから「青」  
をあてた。名前は、  
口の中に細かい歯が  
あるから、サ(小)ハ  
(歯)の意味。

魚 𩺵

⑥



水からあげるとすぐ  
死んでしまうことや、  
他の魚のエサになり  
やすいことから「弱」  
をあてた。

魚 𩺶

⑦



(左から) ② 𩺱 ④ 𩺳 ⑤ 𩺴 ⑥ 𩺵 ⑦ 𩺶

# 全国の小・中学校にポスターを配布！



B1版 (728x1030mm) 「漢字でわかる魚のかんじ」



B2版 (728x515mm) 「知っておきたい魚のはなし」



国産水産物流通促進事業の一環として、子どもたちに魚に興味を持ってもらい、たくさん食べてもらうために、都道府県学校給食会のご協力のもと、全国の小・中学校にポスターを配布しました。魚屋さんの店頭や地域の資料館、魚食普及の場など、有効活用して下さる場所にも配布します。



※個人への配付は行っておりません。



平成 29 年 5 月 15 日発行

発行 — 公益社団法人 日本水産資源保護協会

●連絡先  
〒104-0044  
東京都中央区明石町1-1  
東和明石ビル5F  
TEL 03(6680)4277  
FAX 03(6680)4128  
【振替口座】00120-8-57297

企画・編集 — 公益社団法人 日本水産資源保護協会  
制作・印刷 — 株式会社 生物研究社